

連載企画

身近な山や川をジオの視点から楽しむ! 筑波山地域ジオパーク探訪

問 ジオパーク室

その6



ジオパークの再認定審査の仕組みって?

ジオパークは、4年に1度、日本ジオパーク委員会による「再認定審査」を受けなければなりません。筑波山地域ジオパークの再認定のための現地調査が1月に行われますので、今回は再認定審査の仕組みを紹介します。

「筑波山地域ジオパーク」の目指すもの

「筑波山地域ジオパーク」の目指すものは、筑波山地域に住む方々が地域の価値を再発見し、愛着を持ち、さらに、訪れる方々にもその価値を理解してもらうことで、より多くの方々に愛される地域をつくることです。価値のある地質・地形や、関連する自然、文化を保全し、さらにそれらを観光や教育などに活用する活動を行っています。この活動は、石岡市、笠間市、つくば市、桜川市、土浦市、かすみがうら市の6市からなる筑波山地域ジオパーク推進協議会によって進められています。



国土地理院 国土数値情報より作成

ジオパークの再認定審査の仕組み

同審査では、ジオパークの活動が、質・量ともに充実したものになっているかの確認が行われます。筑波山地域ジオパークの審査結果は2月に出る予定ですが、今回は初めての再認定審査であるため「認定取り消し」にはなりません。しかし、課題が多いと判断されれば「条件付き再認定」となり、2年後に再度審査を受けます。審査の判断材料は、ジオパーク側の活動報告書と、現地調査員による調査報告書です。現地調査は、活動内容や課題の改善状況の確認の場であるとともに、日本ジオパーク委員会側と協力して解決策を見出す場でもあります。再認定審査の制度はジオパークをより良いものにするためにあるのです。



日本ジオパークネットワーク発行リーフレット「日本のジオパーク活動」より抜粋

筑波山地域ジオパークの4年間の取り組み

筑波山地域ジオパークでは、この4年間で地域資源を保全し、特に観光、教育分野に力を入れてきました。今後も4年間で進めてきたことをさらに推し進めつつ、この「広報つくば」でも紹介してきた数々の魅力を、より広く発信していきます。

この4年間で特に前進した取り組み

- ▲ 日本ジオパークネットワーク関東大会を筑波山地域ジオパークで開催し、「ユニバーサルデザインジオツアー(※)」などのプログラムを他のジオパークに先駆けて実施
- ▲ 認定ジオガイド養成制度を新設。1月1日現在、57人のジオガイドがツアーなどで活躍
- ▲ ジオパークエリア内に総合案内板や解説板、歓迎板を計25基設置し、ジオパークの取り組みの可視化を推進
- ▲ 筑波山地域ジオパーク認定商品の制度を新設し、筑波山地域で採れた食材を使った商品や地域内で製造された商品34品を認定

※視覚や聴覚に障害を持つ方も楽しめるよう設計された、五感で地層や岩石などを体験するツアー